

教科 Subject	理科		科目 Course	生物基礎(Ⅰ類)	学年 Grade	4	単位数 Credits	2
教科書 Textbook	新編生物基礎(東京書籍)			副教材Additional Text /materials	ニューステップアップ生物基礎(東京書籍)			
科目の目標 Course Objectives		生物体の生命維持としてのエネルギー代謝、種の維持としての遺伝について遺伝子レベルで理解する。また、生体内環境とその相互関係を理解する。						
評価の基準 Assessment Standards		定期試験70%、学習活動(ノート、課題等)30%						
Term	Month	Week	学習内容&課題 Study Contents			到達目標 Students will be able to ~		
1 学期	4	1	1編 生物の特徴			生物の基本単位としての細胞を理解する。生命活動としての代謝、並びにエネルギーの発生を理解する。		
		2	1章 生物の多様性と共通性					
		3	2章 生命活動とエネルギー					
	5	4	2編 遺伝子とそのはたらき 1章 生物と遺伝子 2章 遺伝情報の分配 3章 遺伝情報とタンパク質の合成			DNAの構成を理解し、細胞分裂との関係、さらにタンパク質合成との関係を理解する。		
		5						
	6							
	7							
6	8							
	9							
7	10							
	11							
2 学期	9	13	3編 生物の体内環境の維持			体内環境の恒常性維持に係わる体液・神経・ホルモンの役割とその相互関係を理解する。		
		14	1章 体内環境の維持					
		15	2章 体内環境を保つしくみ					
		16						
	10	17	3章 体内環境を守るしくみ			生命保持のための生体防御を理解する。免疫の正しい理解と日常生活での生体防御を考える。		
		18						
	11	19						
		20						
		21						
		22						
	12	23						
		24						
25								
26								
3 学期	1	27	4編 生物の多様性と生態系			植物の外的環境とその適応を理解する。植物相互と環境要因の関係をマクロな視野で理解する。生態系の保全と人間の関係を考える。生物に必要な資源について考える。		
		28	1章 植生の多様性と遷移					
		29	2章 バイオームとその分布					
	2	30	3章 生態系とその保全					
		31						
		32						
	3	33						
		34						
		35						

履修者へのメッセージ Message for Students

われわれヒトも地球環境のなかで、他の生物と密接な関係を保ちながら生存している。また生物体の内部環境をを正しく理解することで、将来の地球のあり方、他の生物とのかわり方を広い視野で考え、ヒトは地球上でどのようなあり方がいいのか考えてみたい。

教科 Subject	理科		科目 Course	生物基礎(Ⅱ類)	学年 Grade	4	単位数 Credits	2
教科書 Textbook	新編生物基礎 (東京書籍)			副教材Additional Text /materials	ニューステップアップ生物基礎 (東京書籍)			
科目の目標 Course Objectives		生物体の生命維持としてのエネルギー代謝、種の維持としての遺伝について遺伝子レベルで理解する。また、生体内環境とその相互関係を理解する。また応用問題を解けるようにする。						
評価の基準 Assessment Standards		定期試験80%、学習活動(ノート、課題等)20%						
Term	Month	Week	学習内容&課題 Study Contents			到達目標 Students will be able to ~		
1 学期	4	1	1編 生物の特徴			生物の基本単位としての細胞を理解する。生命活動としての代謝、並びにエネルギーの発生を理解する。		
		2	1章 生物の多様性と共通性					
		3	2章 生命活動とエネルギー					
	5	4						
		5						
6	7	6	2編 遺伝子とそのはたらき			DNAの構成を理解し、細胞分裂との関係、さらにタンパク質合成との関係を理解する。		
		8	1章 生物と遺伝子					
		9	2章 遺伝情報の分配					
7	10	10	3章 遺伝情報とタンパク質の合成					
		11						
2 学期	9	12	3編 生物の体内環境の維持			体内環境の恒常性維持に係わる体液・神経・ホルモンの役割とその相互関係を理解する。		
		13	1章 体内環境の維持					
		14	2章 体内環境を保つしくみ					
		15						
	10	16						
		17	3章 体内環境を守るしくみ					
		18						
		19						
11	20							
	21							
	22							
	23							
12	24							
	25							
3 学期	1	26	4編 生物の多様性と生態系			植物の外的環境とその適応を理解する。植物相互と環境要因の関係をマクロな視野で理解する。生態系の保全と人間の関係を考える。生物に必要な資源について考える。		
		27	1章 植生の多様性と遷移					
		28	2章 バイオームとその分布					
	2	29	3章 生態系とその保全					
		30						
		31						
	3	32						
		33						
		34						
		35						

履修者へのメッセージ Message for Students

われわれヒトも地球環境のなかで、他の生物と密接な関係を保ちながら生存しています。また生物体の内部環境を正しく理解することで、将来の地球のあり方、他の生物とのかかわり方を広い視野で考え、ヒトは地球上でどのようなあり方がいいのか考えてみたいと思います。Ⅱ類ではより理解を深める為に、入試問題等の演習を授業内で扱っていきます。

教科 Subject	理科		科目 Course	物理基礎(Ⅰ類)	学年 Grade	4	単位数 Credits	2
教科書 Textbook	改訂 新編 物理基礎 (東京書籍)			副教材Additional Text /materials	ニュークローバル物理基礎 (東京書籍)			
科目の目標 Course Objectives			物理的な事物・事象を通して、自然に対する関心や探究心を高め、基本的な概念・原理・法則を理解し、科学的な自然観を育成する。					
評価の基準 Assessment Standards			定期試験70%、学習活動(ノート、問題演習、課題等)30%					
Term	Month	Week	学習内容&課題 Study Contents			到達目標 Students will be able to ~		
1 学期	4	1	第1編 物体の運動とエネルギー			等速運動や等加速度運動について理解する。		
		2	1章 直線運動の世界					
		3						
	5	4						
		5						
6	6	6	2章 力と運動の法則			力や質量と加速度の関係を理解する。		
		7						
	8	3章 仕事とエネルギー			エネルギー保存則について理解する。			
								9
10								
7	11							
12								
2 学期	9	13				熱量保存の法則・ボイルの法則・シャルルの法則について理解し、公式を使い計算問題ができるようにする。		
		14						
		15						
		16						
	10	17	第2編 さまざまな物理現象とエネルギー			比熱や熱容量について理解する。また、定量変化や定圧変化、ボイルシャルルの法則について理解する。		
		18	1章 熱					
		19						
		20						
11	21	2章 波			横波と縦波、重ね合わせの原理や定常波について理解する。			
	22							
	23							
	24							
12	25							
26								
3 学期	1	27	3章 電気			電気について理解する。オームの法則や、直流・交流について理解する。		
		28						
		29						
	2	30	4章 エネルギー			様々なエネルギーの変換と保存について理解する。日本や社会のエネルギー問題について理解し、日常生活におけるエネルギーの利用について考える。		
		31						
		32						
	33							
	3	34						
		35						

履修者へのメッセージ Message for Students

物理基礎は、さまざまな自然現象において理解した上で、それを数式に表した教科です。したがって、たくさんの数式がでできます。この数式は何故できたかを理論的にわかっていないと、たとえ丸暗記しても身につけません。したがって、数学という教科と同じと思ってください。

教科 Subject	理科		科目 Course	物理基礎(Ⅱ類)	学年 Grade	4	単位数 Credits	2
教科書 Textbook	改訂 新編 物理基礎 (東京書籍)			副教材Additional Text /materials	ニュークローバル物理基礎 (東京書籍)			
科目の目標 Course Objectives		物理的な事象・事象を通して、自然に対する関心や探究心を高め、基本的な概念・原理・法則を理解し、科学的な自然観を育成する。また応用問題を解けるようにする。						
評価の基準 Assessment Standards		定期試験80%、学習活動(ノート、問題演習、課題等)20%						
Term	Month	Week	学習内容&課題 Study Contents			到達目標 Students will be able to ~		
1 学期	4	1	第1編 物体の運動とエネルギー 1章 直線運動の世界			等速運動や等加速度運動について理解する。		
		2						
		3						
	5	4	2章 力と運動の法則			力や質量と加速度の関係を理解する。		
5								
6	6	3章 仕事とエネルギー			エネルギー保存則について理解する。			
	7							
8	9							
10	11							
2 学期	9	13	第2編 さまざまな物理現象とエネルギー 1章 熱			熱量保存の法則・ボイルの法則・シャルルの法則について理解し、公式を使い計算問題ができるようにする。		
		14						
		15						
		16						
10	17	2章 波			比熱や熱容量について理解する。また、定量変化や定圧変化、ボイルシャルルの法則について理解する。			
	18							
11	19							
	20							
12	21							
	22							
23	24							
25	26							
3 学期	1	27	3章 電気			電気について理解する。オームの法則や、直流・交流について理解する。		
		28						
		29						
	2	30	4章 エネルギー			様々なエネルギーの変換と保存について理解する。日本や社会のエネルギー問題について理解し、日常生活におけるエネルギーの利用について考える。		
		31						
		32						
33								
3	34							
	35							

履修者へのメッセージ Message for Students

物理基礎は、さまざまな自然現象において理解した上で、それを数式に表した教科です。したがって、たくさんの数式がでできます。この数式は何故できたかを理論的にわかっていないと、たとえ丸暗記しても身につけません。したがって、数学という教科と同じとってください。

Ⅱ類ではより理解を深める為に、入試問題等の演習を授業内で扱っていきます。

教科 Subject	理科		科目 Course	生物	学年 Grade	5	単位数 Credits	2
教科書 Textbook	生物（東京書籍）			副教材Additional Text /materials	ニューグローバル生物（東京書籍）			
科目の目標 Course Objectives			近年発展しているバイオテクノロジーをさらに医療や日常生活に活用できることを考えるための基本的な生物の機能、遺伝子の情報を理解する。					
評価の基準 Assessment Standards			定期試験 80%、学習活動（ノート、課題等） 20%					
Term	Month	Week	学習内容&課題 Study Contents			到達目標 Students will be able to ~		
1 学期	4	1	第1編 生命現象と物質			細胞の構造とはたらき、生体内ではたらくタンパク質の構造とはたらきを理解し、また生物体内でのエネルギー循環、代謝についての関連を見い出す。 DNAの複製や発現のしくみを理解し、遺伝子がどのように生物に関わっていくかを学び、理解する。		
		2	1章 生体物質と細胞					
		3	2章 生命現象を支えるタンパク質					
	5	4	3章 代謝とエネルギー					
		5						
	6	第2編 遺伝子のはたらき						
	6	7	1章 遺伝情報の発現					
8		2章 遺伝子の発現調節						
9		3章 バイオテクノロジー						
7	10							
2 学期	9	11	第3編 生殖と発生			さまざまな動物や植物の生殖と発生のしくみを理解し、第2編で学んだ遺伝子との関わりを理解する。		
		12	1章 生物の生殖と配偶子の形成					
		13	2章 動物の発生					
		14						
	10	15	3章 動物の発生のしくみ					
		16	4章 発生をつかさどる遺伝子					
		17	5章 植物の発生					
	11	18						
		19						
		20						
12	21							
	22							
	23							
24								
3 学期	1	25	第4編 生物の環境応答			生物への刺激の伝わり方とそれに対する応答のしくみを理解する。		
		26	1章 動物の刺激の受容と反応					
		27	2章 動物の行動					
	2	28	3章 植物の環境応答					
		29						
		30						
	3	31						
		32						
		33						
34								
35								

履修者へのメッセージ Message for Students

生物基礎では扱わなかった、遺伝や生殖と発生という分野を中心に学習していきます。そのしくみを理解し、生命の不思議について学んでいって欲しいです。また、われわれヒトと生物との関係や将来の地球のあり方を広い視野で考え、これからヒトは地球上でどのようなあり方がいいのか考えてみたいと思います。

教科 Subject	理科		科目 Course	化学基礎(Ⅰ類)	学年 Grade	5	単位数 Credits	1
教科書 Textbook	新編化学基礎 (東京書籍)			副教材Additional Text /materials	ニューステップアップ化学基礎 (東京書籍)			
科目の目標 Course Objectives		化学の基礎を学ぶとともに、身の回りの物質や現象がどのようなしくみで成り立っているかを理解し、その知識をもとにした化学的な考え方を養う。						
評価の基準 Assessment Standards		定期試験70%、授業点(授業ノートのチェック、課題の提出、小テストなど)30%						
Term	Month	Week	学習内容&課題 Study Contents		到達目標 Students will be able to ~			
1 学期	4	1	第1編 物質の構成		身のまわりにある物質の種類や性質を知り、それらを構成する原子の性質を理解する。			
		2	1章 物質の成分と構成元素					
		3						
	5	4	2章 原子の構造と元素の周期表		原子・分子・イオンの粒子の違いによる、化学結合の種類や性質の違いを知り、様々な物質がどのように成り立っているかを理解する。			
		5						
	6	6	3章 化学結合					
		7						
8								
7	9							
	10							
11	11	第2編 物質の変化		様々な粒子の量について考えるための方法と、これらの粒子が組換わる化学反応の表し方について学び、理解する。				
	12							
2 学期	9	13	1章 物質と化学反応式		酸と塩基の性質と中和反応について学び、そのしくみや表し方を理解し、また数量的関係についての種々の問題が解けるよう理解する。			
		14						
		15						
	10	16	2章 酸と塩基					
		17						
	11	18						
		19						
20								
12	21							
	22							
3 学期	1	23	3章 酸化還元反応		酸化還元反応について、電子の授受によって説明できることを理解し、自ら説明できるようにする。 酸化還元反応による電池の仕組みを理解する。			
		24						
		25						
	2	26						
		27						
	3	28						
		29						
30								
3	31							
	32							
35	33							
	34							

履修者へのメッセージ Message for Students

化学基礎は、これまでに小中学校で学んだ化学的な知識や思考をより深められる教科です。身近にある物質や現象が、どのような仕組みで成り立っているのかをより深く理解することで、あたり前の様であったものや事柄を、今までとは違う見方が出来る様になると思います。目に見えるものから見えないものまで、その不思議な仕組みについて、ぜひ興味を持って学習に望んで欲しいと思います。

教科 Subject	理科		科目 Course	化学基礎(Ⅱ類)	学年 Grade	5	単位数 Credits	2
教科書 Textbook	新編化学基礎 (東京書籍)			副教材Additional Text /materials	ニューステップアップ化学基礎 (東京書籍)			
科目の目標 Course Objectives		化学の基礎を学ぶとともに、身の回りの物質や現象がどのようなしくみで成り立っているかを理解し、その知識をもとにした化学的な考え方を養う。また応用問題を解けるようにする。						
評価の基準 Assessment Standards		定期試験80%、授業点(授業ノートのチェック、課題の提出、小テストなど)20%						
Term	Month	Week	学習内容&課題 Study Contents			到達目標 Students will be able to ~		
1 学期	4	1	第1編 物質の構成			身のまわりにある物質の種類や性質を知り、それらを構成する原子の性質を理解する。		
		2	1章 物質の成分と構成元素					
		3						
	5	4	2章 原子の構造と元素の周期表					
5								
6	6	3章 化学結合						
	7							
		8						
		9						
		10						
		11						
		12						
		13						
2 学期	9	13	第2編 物質の変化			様々な粒子の量について考えるための方法と、これらの粒子が組換わる化学反応の表し方について学び、理解する。		
		14	1章 物質と化学反応式					
		15						
	10	16	2章 酸と塩基					
17								
11	18							
	19							
12	20							
	21							
		22						
		23						
		24						
		25						
3 学期	1	25	3章 酸化還元反応			酸化還元反応について、電子の授受によって説明できることを理解し、自ら説明できるようにする。 酸化還元反応による電池の仕組みを理解する。		
		26						
		27						
	2	28						
		29						
		30						
3	31							
	32							
		33						
		34						
		35						
		36						

履修者へのメッセージ Message for Students

化学基礎は、これまでに小中学校で学んだ化学的な知識や思考をより深められる教科です。身近にある物質や現象が、どのような仕組みで成り立っているのかをより深く理解することで、あたり前の様であったものや事柄を、今までとは違う見方が出来る様になると思います。目に見えるものから見えないものまで、その不思議な仕組みについて、ぜひ興味を持って学習に望んで欲しいと思います。

Ⅱ類ではより理解を深める為に、入試問題等の演習を授業内で扱っていきます。

教科 Subject	理科		科目 Course	物理	学年 Grade	5	単位数 Credits	2
教科書 Textbook	物理（数研出版）			副教材Additional Text /materials	リードα物理（数研） 物理重要問題集（数研）			
科目の目標 Course Objectives			物理的な事象・事象を通して、自然に対する関心や探究心を高め、基本的な概念・原理・法則を理解し、科学的な自然観を育成する。					
評価の基準 Assessment Standards			定期試験80%、学習活動（ノート、問題演習、課題等）20%					
Term	Month	Week	学習内容&課題 Study Contents			到達目標 Students will be able to ~		
1 学期	4	1	第1編 力と運動			カーブを曲がる等の一直線ではない平面内の運動について理解する。特に1つの運動を2つの異なる方向の運動に分解して考えることを学ぶ。		
		2	第1章 平面内の運動					
		3	第2章 剛体					
	5	4	第3章 運動量の保存					
		5						
	6	6	第4章 円運動と万有引力					
		7	8					
9								
10								
2 学期	9	11	第2編 熱と気体			気体については気体分子の力学的エネルギーの観点から理解する。熱現象におけるエネルギー保存則を定積変化・等圧変化・等温変化・断熱変化など、具体的な現象に適用し、気体の状態変化を理解する		
		12	第1章 気体のエネルギーと状態変化					
		13						
		14						
	10	15						
		16						
		17						
11	18	第3編 波			物理基礎での知識を基に、より複雑な波や音、光についての性質を理解する。			
	19	第1章 波の伝わり方						
	20	第2章 音の伝わり方						
	21							
12	22							
	23							
	24							
3 学期	1	25	第3章 光					
		26						
		27						
	2	28						
		29						
		30						
	3	31						
		32						
		33						
		34						
		35						

履修者へのメッセージ Message for Students

物理基礎を基に、より発展的な物理の法則を学んでいきます。より複雑な公式や数式が出てくるのでつまづいたらすぐに復習をして理解不足を作らず学習を進めていってほしいと思います。

教科 Subject	理科		科目 Course	化学	学年 Grade	6	単位数 Credits	4
教科書 Textbook	化学(東京書籍)			副教材Additional Text /materials	ニューグローバル化学基礎+化学(東京書籍)			
科目の目標 Course Objectives			化学的に探求する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。					
評価の基準 Assessment Standards			定期試験80%、学習活動(ノート、問題演習、課題等)20%					
Term	Month	Week	学習内容&課題 Study Contents			到達目標 Students will be able to ~		
1 学期	4	1	第1編 物質の状態と平衡			物質の様々な状態の性質や法則を理解する。		
		2	1章 物質の状態 2章 気体の性質			化学反応における熱や光の性質を理解し、また化学反応式のしくみや計算方法を理解する。		
		3	3章 溶液の性質 4章 固体の構造					
	5	4	第2編 化学反応とエネルギー			化学反応の速さと平衡のしくみを理解する。		
		5	1章 化学反応と熱・光					
		6	2章 電池と電気分解					
	6	7	第3編 化学反応の速さと平衡			無機物質それぞれが持つ性質を理解する。		
8		1章 化学反応の速さ 2章 化学平衡						
9		3章 水溶液中の化学平衡						
7	11	10	第4編 無機物質					
		12	1章 周期表と元素 2章 非金属元素の単体と化合物					
2 学期	9	13	3章 典型金属元素の単体と化合物			有機化合物のしくみを理解し、それぞれの特徴を見いだす。		
		14	4章 遷移元素の単体と化合物					
		15	5章 無機物質と人間生活					
		16	第5編 有機化合物					
	10	17	1章 有機化合物の特徴と構造			高分子化合物の構造と種類、性質を理解する。		
		18	2章 炭化水素 3章 酸素を含む有機化合物					
		19	4章 芳香族化合物					
		20	5章 有機化合物と人間生活					
	11	21	第6編 高分子化合物					
		22	1章 高分子化合物					
23		2章 天然高分子化合物						
24		3章 合成高分子化合物						
12	25							
	26							
3 学期	1	27						
		28						
		29						
	2	30						
		31						
		32						
		33						
3	34							
	35							

履修者へのメッセージ Message for Students

化学基礎を基に、より化学の専門的な内容を学びます。物質の持つ様々な性質や法則を理解し学習を進めていってほしいと思います。暗記することが多くありますが、根気よく少しずつ覚えていくようにしてください。

教科 Subject	理科		科目 Course	物理	学年 Grade	6	単位数 Credits	4
教科書 Textbook	物理 (数研)			副教材Additional Text /materials	リードα物理 (数研) 物理重要問題集 (数研)			
科目の目標 Course Objectives			物理的な事物・事象を通して、自然に対する関心や探究心を高め、基本的な概念・原理・法則を理解し、科学的な自然観を育成する。					
評価の基準 Assessment Standards			定期試験80%、学習活動(ノート、問題演習、課題等)20%					
Term	Month	Week	学習内容&課題 Study Contents			到達目標 Students will be able to ~		
1 学期	4	1	第3編 波			物理基礎での知識を基に、より複雑な波や音、光についての性質を理解する。		
		2	第1章 波の伝わり方 第2章 音の伝わり方					
		3	第3章 光					
	5	4	第4編 電気と磁気			電場の考え方について基本的に理解し、クーロンの法則・電気保存の法則を理解する。コンデンサの接続、エネルギーについて例題を通して理解する。		
		5						
		6						
	6	7	第1章 電場					
8		第2章 電流						
9								
10	11							
12	12							
2 学期	9	13	第3章 電流と磁場			電気現象を取扱い、オームの法則・電流がする仕事・仕事率について、キフヒホッフの法則・ホイートストンブリッジの回路など、例題を解きながら理解する。電流がつくる磁場について、ローレンツ力・磁場内における荷電粒子の運動について理解する。 電磁誘導の法則・誘導起電力について理解する。 自己誘導・相互誘導について理解する。		
		14	第4章 電磁誘導と電磁場					
		15						
		16						
	10	17	第5編 原子			電子の性質と原子の構造、電氣的性質を中心に固体の性質を学ぶ。 入試問題を解くことで理解を深め、実力を養成する。		
		18						
		19						
		20						
11	21	第1章 電子と光 第2章 原子と原子核 入試問題演習						
	22							
	23							
	24							
25	26							
3 学期	1	27						
		28						
		29						
	2	30						
		31						
		32						
3	33							
	34							
35								

履修者へのメッセージ Message for Students

物理基礎を基に、より発展的な物理の法則を学んでいきます。より複雑な公式や数式が出てくるのでつまづいたらすぐに復習をして理解不足を作らず学習を進めていってほしいと思います。

教科 Subject	理科		科目 Course	生物(文系)	学年 Grade	6	単位数 Credits	4
教科書 Textbook	生物 (東京書籍)			副教材Additional Text /materials	ニューグローバル生物 (東京書籍)			
科目の目標 Course Objectives			近年発展しているバイオテクノロジーをさらに医療や日常生活に活用できることを考えるための基本的な生物の機能、遺伝子の情報を理解する。					
評価の基準 Assessment Standards			定期試験70%、学習活動(ノート、課題等)30%					
Term	Month	Week	学習内容&課題 Study Contents			到達目標 Students will be able to ~		
1 学期	4	1	第1編 生命現象と物質			細胞の構造とはたらき、生体内ではたらくタンパク質の構造とはたらきを理解し、また生物体内でのエネルギー循環、代謝についての関連を見い出す。		
		2	1章 生体物質と細胞					
		3	2章 生命現象を支えるタンパク質					
	5	4	3章 代謝とエネルギー			DNAの複製や発現のしくみを理解し、遺伝子がどのように生物に関わっていくかを学び、理解する。		
		5	第2編 遺伝子のはたらき					
		6	1章 遺伝情報の発現					
	6	7	2章 遺伝子の発現調節					
		8	3章 バイオテクノロジー					
		9						
	7	10						
		11						
		12						
2 学期	9	13	第3編 生殖と発生			さまざまな動物や植物の生殖と発生のしくみを理解し、第2編で学んだ遺伝子との関わりを理解する。		
		14	1章 生物の生殖と配偶子の形成					
		15	2章 動物の発生					
		16	3章 動物の発生のしくみ					
	10	17	4章 発生をつかさどる遺伝子			生物への刺激の伝わり方とそれに対する応答のしくみを理解する。		
		18	5章 植物の発生					
		19						
		20						
	11	21	第4編 生物の環境応答					
		22	1章 動物の刺激の受容と反応					
		23	2章 動物の行動					
		24						
12	25							
	26							
3 学期	1	27						
		28						
		29						
	2	30						
		31						
		32						
	3	33						
		34						
		35						

履修者へのメッセージ Message for Students

生物基礎では扱わなかった、遺伝や生殖と発生という分野を中心に学習していきます。そのしくみを理解し、生命の不思議について学んでいって欲しいです。また、われわれヒトと生物との関係や将来の地球のあり方を広い視野で考え、これからヒトは地球上でどのようなあり方がいいのか考えてみたいと思います。

教科 Subject	理科		科目 Course	生物(理系)	学年 Grade	6	単位数 Credits	4
教科書 Textbook	生物 (東京書籍)			副教材Additional Text /materials	ニューグローバル生物 (東京書籍)			
科目の目標 Course Objectives		近年発展しているバイオテクノロジーをさらに医療や日常生活に活用できることを考えるための基本的な生物の機能、遺伝子の情報を理解する。						
評価の基準 Assessment Standards		定期試験80%、学習活動(ノート、課題等)20%						
Term	Month	Week	学習内容&課題 Study Contents		到達目標 Students will be able to ~			
1 学期	4	1	第5編 生態と環境		<p>個体群と生物群集の関わりや生態系における生物はたらき、物質生産やエネルギーの流れを理解する。</p> <p>生命の起源からその進化を学び、現在わかっている進化のしくみを理解する。</p> <p>入試問題を解くことで理解を深め、実力を養成する。</p>			
		2	1章 個体群と生物群集					
		3	2章 生態系の物質生産とエネルギーの流れ					
	5	4	3章 生態系と生物多様性					
		5	第6編 生物の進化と系統					
	6	6	1章 生命の起源と生物の変遷					
		7	2章 進化のしくみ					
		8	3章 生物の系統					
		9	入試問題演習					
	7	10						
2 学期	9	11	入試問題演習					
		12						
		13						
		14						
	10	15						
		16						
		17						
		18						
	11	19						
		20						
		21						
		22						
12	23							
	24							
	25							
	26							
3 学期	1	27						
		28						
		29						
	2	30						
		31						
		32						
	3	33						
		34						
		35						

履修者へのメッセージ Message for Students

生物基礎では扱わなかった、遺伝や生殖と発生という分野を中心に学習していきます。そのしくみを理解し、生命の不思議について学んでいって欲しいです。また、われわれヒトと生物との関係や将来の地球のあり方を広い視野で考え、これからヒトは地球上でどのようなあり方がいいのか考えてみたいと思います。